

COVID-19に関する今後の患者の発生動向等の公表資料イメージ（案）

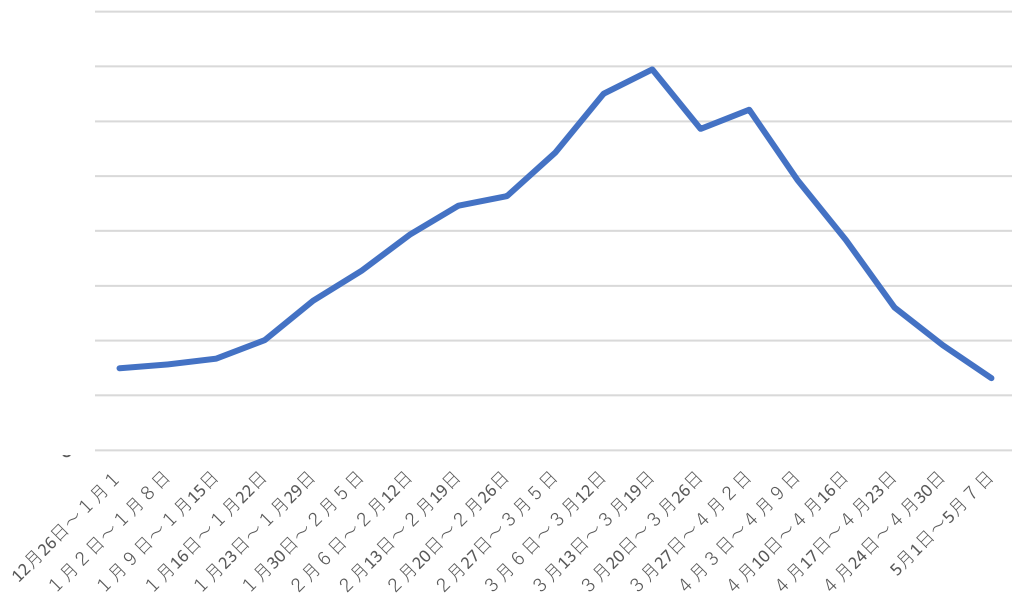
（参考値）HER-SYSデータに基づく定点医療機関からの患者数

検討中の案

※初回：R4.10/3 - R5.5/7データを5/12(金)に公表予定（厚労省HP）

定点医療機関当たり患者数推移（イメージ）

新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数推移



※令和4年10月3日～令和5年5月7日の週（疫学週）ごとのデータ
 ※全国、都道府県別で公表

定点当たり報告数推移（イメージ）

新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数推移・都道府県別

区分	第8週 2/20-2/26	第9週 2/27-3/5	第10週 3/6-3/12	第11週 3/13-3/19	第12週 3/20-3/26
北海道	11.31	10.16	12.90	12.09	8.75
青森県	15.16	15.19	14.97	10.63	13.20
岩手県	41.37	33.37	26.03	16.73	11.65
宮城県	4.38	3.99	4.08	3.84	5.25
秋田県	15.88	12.49	13.02	9.90	11.14
山形県	7.68	11.14	16.70	16.14	16.75
福島県	4.61	6.27	7.71	5.93	5.90
茨城県	7.67	8.08	8.83	5.92	4.11
栃木県	10.00	11.37	15.82	12.39	7.99
群馬県	4.69	5.38	8.07	8.93	7.47
埼玉県	10.38	10.63	13.29	10.31	7.86
千葉県	9.05	8.51	8.60	5.92	3.45
東京都	8.53	8.34	10.48	7.75	5.18
神奈川県	12.99	11.35	12.57	8.58	5.28
新潟県	7.61	9.80	15.59	19.45	19.43
富山県	29.85	26.25	26.02	18.42	13.85
石川県	48.17	33.77	25.08	15.54	10.25
福井県	33.16	23.46	18.49	9.08	4.38
山梨県	3.37	2.90	3.80	4.32	3.54
長野県	11.07	9.13	10.77	7.97	4.98
岐阜県	3.08	3.32	3.85	3.93	3.20
静岡県	3.01	4.16	5.96	4.62	3.39
愛知県	8.08	8.11	11.17	10.02	8.21
三重県	8.10	8.01	7.97	9.46	7.88
滋賀県	14.37	14.18	15.85	11.75	8.42
京都府	18.89	14.28	12.63	7.82	4.89
大阪府	14.74	10.39	8.27	5.21	3.21
兵庫県	11.37	9.14	9.84	6.61	4.67
奈良県	13.55	11.13	8.53	7.25	6.09
和歌山県	10.22	8.98	6.84	4.73	2.65
鳥取県	2.41	4.17	6.00	4.55	4.93
島根県	6.84	8.74	6.71	4.21	3.87
岡山県	9.37	8.21	12.35	10.37	7.01
広島県	7.65	8.98	10.14	9.69	10.07
山口県	7.55	7.94	10.12	9.33	7.12
徳島県	7.11	7.78	10.22	6.14	2.57
香川県	13.89	11.64	14.09	10.19	8.81
愛媛県	7.49	7.05	9.26	6.82	4.28
高知県	7.76	7.87	6.56	3.60	3.18
福岡県	15.45	14.54	14.83	9.94	8.70
佐賀県	17.72	16.08	14.49	7.31	5.18
長崎県	14.93	11.94	11.17	5.39	3.93
熊本県	7.29	7.28	8.84	6.93	5.52
大分県	17.40	15.03	16.19	11.12	8.62
宮崎県	12.12	8.81	9.38	5.78	5.31
鹿児島県	4.21	3.86	4.42	3.61	2.07
沖縄県	12.76	8.05	11.27	9.02	7.56
総数	11.32	10.17	11.10	8.42	6.44
昨年同期(総数)	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00

※令和5年5月7日までのデータのうち、直近4週分
 ※全国、都道府県別で公表
 ※報告数の実数も、全国、都道府県別で公表

定点当たり新規患者数

※初回：5/8－5/14データを5/19(金)に公表予定（厚労省HP）

報告数・定点当たり報告数（イメージ）

新型コロナウイルス感染症報告数・定点当たり報告数、都道府県別

都道府県	報告数	定点当たり
北海道	2,769	12.09
青森県	680	10.63
岩手県	1,054	16.73
宮城県	365	3.84
秋田県	505	9.90
山形県	710	16.14
福島県	492	5.93
茨城県	710	5.92
栃木県	942	12.39
群馬県	768	8.93
埼玉県	2,556	10.31
千葉県	1,173	5.92
東京都	3,140	7.75
神奈川県	2,967	8.58
新潟県	1,692	19.45
富山県	884	18.42
石川県	746	15.54
福井県	336	9.08
山梨県	177	4.32
長野県	693	7.97
岐阜県	342	3.93
静岡県	638	4.62
愛知県	1,954	10.02
三重県	681	9.46
滋賀県	705	11.75
京都府	970	7.82
大阪府	1,554	5.21
兵庫県	1,316	6.61
奈良県	399	7.25
和歌山県	232	4.73
鳥取県	132	4.55
島根県	160	4.21
岡山県	871	10.37
広島県	1,114	9.69
山口県	616	9.33
徳島県	227	6.14
香川県	479	10.19
愛媛県	416	6.82
高知県	162	3.60
福岡県	1,968	9.94
佐賀県	285	7.31
長崎県	377	5.39
熊本県	554	6.93
大分県	645	11.12
宮崎県	335	5.78
鹿児島県	332	3.61
沖縄県	496	9.02
総数	41,319	8.42
昨年同期(総数)	17	0.00

※5月26日以降は、定点当たり報告数推移（前週との比較）も公表

※以下の厚労省HP「インフルエンザの発生状況について」も参照

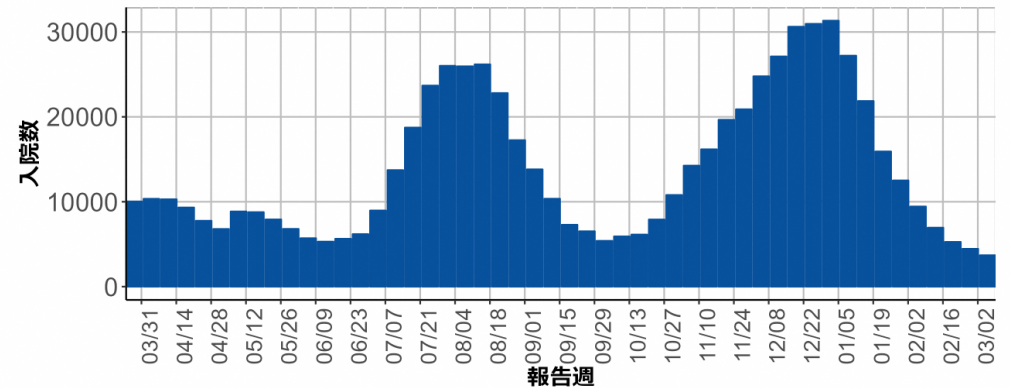
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou_00010.html

新規入院患者数等（G-MIS）

※初回：5/8－5/14データを5/19(金)に公表予定（厚労省HP）

新規入院患者数（イメージ）

新型コロナウイルス感染症 新規入院患者数推移



※G-MISで報告のあった医療機関からの報告数

※5月8日以降のデータに加え、5月7日以前のデータも遡って公表

検体採取人数（イメージ）

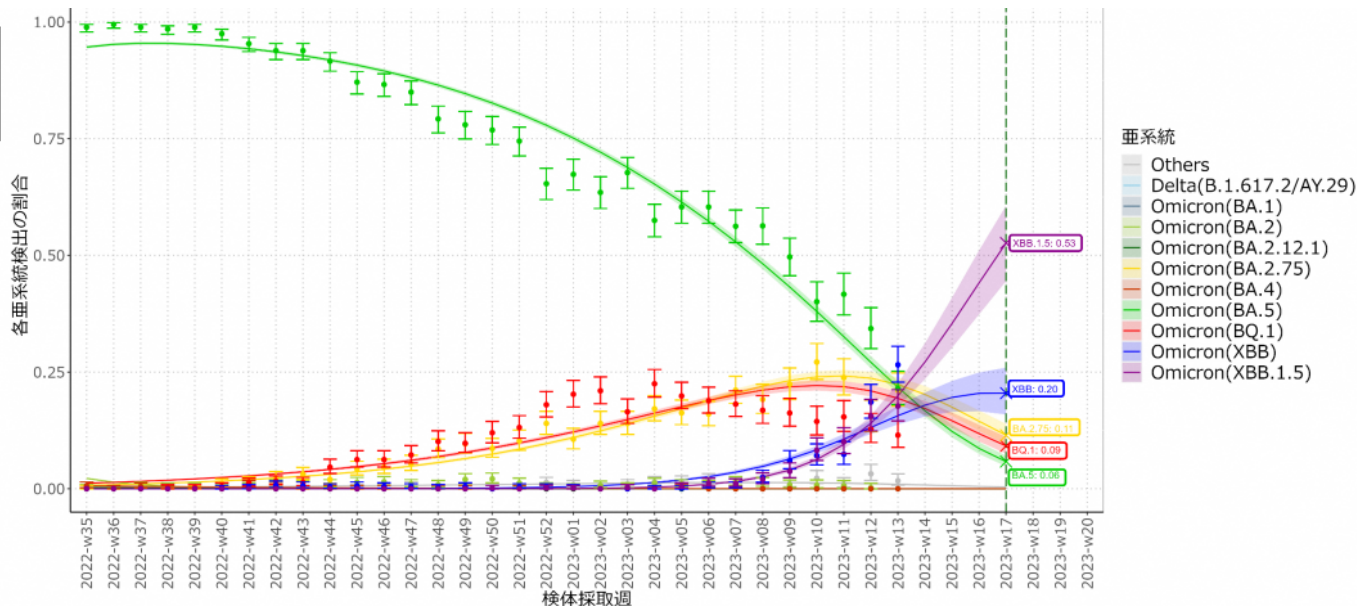
※週次の総人数で示すことを検討中

ゲノムサーベイランス①

※初回：5/8 - 5/14推計値を5/12(金)に公表予定 (感染研HP)

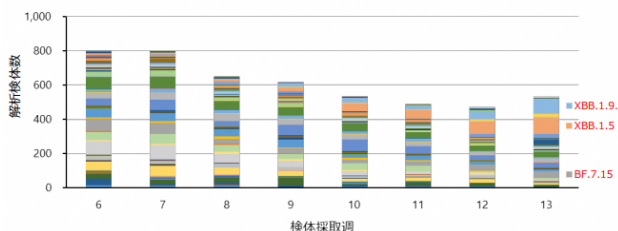
民間検査機関の検体に基づく 亜系統検出の推定 (イメージ)

※4週間前のデータを使用して現時点の動向を推計



民間検査機関の検体に基づく 系統別検出状況 (イメージ)

民間検査機関：第6週～第13週 (2023年)



民間検査機関：第13週 (2023年3月27日～2023年4月2日)

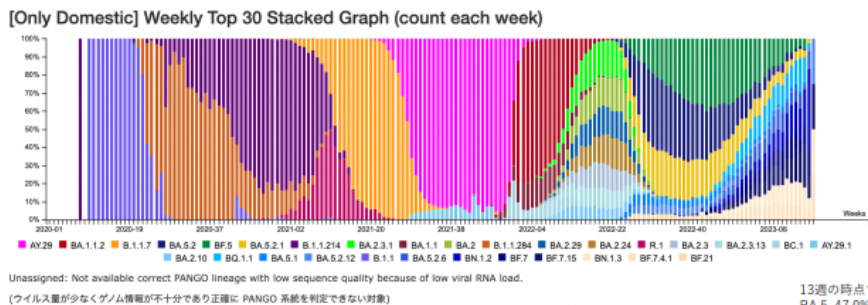
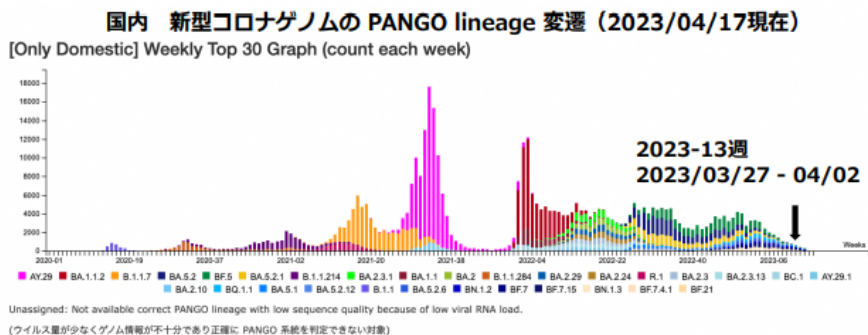
Pango Lineage (Nextclade 2.9.1)	検体数 (第13週)	割合	Pango Lineage (Nextclade 2.9.1)	検体数 (第13週)	割合
BA.2	112	21.09%	BA.5 (続書)	(続書)	
CH.1.1.1	33	6.21%	BQ.1.28	2	0.38%
BN.1.2	29	5.46%	BQ.1.22	2	0.38%
BN.1.3	22	4.14%	BF.7.7	2	0.38%
BN.1.3.2	8	1.51%	BF.5.1	2	0.38%
BN.1	6	1.13%	BQ.1.14	2	0.38%
BR.2	4	0.75%	BA.5.1.23	1	0.19%
CL.1	3	0.56%	CQ.2	1	0.19%
BN.1.1	1	0.19%	BA.5.2.12	1	0.19%
CH.1.1.3	1	0.19%	BE.1.1	1	0.19%
BN.1.1.1	1	0.19%	BQ.1.23	1	0.19%
BN.1.2.1	1	0.19%	BF.14	1	0.19%
BR.2.1	1	0.19%	BF.11.5	1	0.19%
			BQ.1.18	1	0.19%
BA.5	175	32.96%	CK.1.1	1	0.19%
BF.7.15	38	7.16%	BQ.1.1.13	1	0.19%
BQ.1.1	30	5.65%	BQ.1.1.3	1	0.19%
BA.5.2.6	11	2.07%	BQ.1.1.15	1	0.19%
BF.7	11	2.07%	Others	244	45.95%
BF.7.4.1	10	1.88%	XBB.1.5	94	17.70%
BQ.1.1.18	7	1.32%	XBB.1.9.1	83	15.63%
BF.5	7	1.32%	XBB.1	24	4.52%
BA.5.2.1	6	1.13%	XBB.1.9	19	3.58%
BA.5.1	5	0.94%	XBB.2	8	1.51%
BF.11	5	0.94%	XBB.1.8	6	1.13%
BQ.1.25	4	0.75%	XBL	5	0.94%
BQ.1.1.31	4	0.75%	XBC.1	2	0.38%
BA.5.2.43	4	0.75%	XBB	1	0.19%
BQ.1.24	3	0.56%	XAY.1.1	1	0.19%
BF.7.6	3	0.56%	XBF	1	0.19%
BQ.1.2	2	0.38%	総計	531	100.00%

※右の表において、検出されたPango lineage (Nextclade)のうち、割合が高いLineage (上位3位)は赤字で示す。またLineageの定義については以下のサイトのリストを参照。 https://cov-lineages.org/lineage_list.html

ゲノムサーベイランス②

※初回：5/8 - 5/14推計値を5/12(金)に公表予定（感染研HP）

ゲノムサーベイランスによる系統別検出状況（イメージ）



Lineage	2023-13(w)		
BN.1	10	BF.7.4.1	19
BN.1.1	1	BF.7.7	2
BN.1.1.1	1	BQ.1.1	32
BN.1.2	49	BQ.1.1.13	3
BN.1.3	25	BQ.1.1.15	1
BN.1.3.2	12	BQ.1.1.18	14
BN.1.9	1	BQ.1.1.3	1
BR.2	4	BQ.1.1.31	3
BR.2.1	1	BQ.1.11	2
CH.1.1	1	BQ.1.14	1
CH.1.1.1	30	BQ.1.18	1
C.J.1	1	BQ.1.2	2
CM.4.1	1	BQ.1.22	2
BA.5.1	3	BQ.1.23	1
BA.5.1.23	1	BQ.1.24	1
BA.5.2	2	BQ.1.25	2
BA.5.2.1	6	BQ.1.28	3
BA.5.2.12	1	CK.1.1	4
BA.5.2.35	1	CQ.2	2
BA.5.2.43	12	XAA	1
BA.5.2.6	6	XAY	1
BE.1.1	1	XBB.1	28
BF.11	17	XBB.1.5	114
BF.11.5	1	XBB.1.8	4
BF.14	1	XBB.1.9	20
BF.5	16	XBB.1.9.1	92
BF.5.1	3	XBB.2	7
BF.7	26	XBC.1	1
BF.7.15	62	XBL	5
		Unassigned	14

13週の時点でBA.1 0%、BA.2 24.2%、BA.4 0%、BA.5 47.0%、デルタ株 0%、それ以外 28.8%であった。 検出されていない。
※それぞれの下位系統を含む ※その他の株は

※今後、解析判定データの追加登録が行われ、数値の変動があることに留意

※地方衛生研究所で解析されたゲノム解析結果を含む。
※変異株PCR検査での陽性検体を優先してゲノム解析していたことあるため、正確な母数でPANGO lineage判定できない可能性がある。
※デルタ株は、PANGO系統のB.1.617.2系統とその亜系統にあたるAY系統を含む。
※オミクロン株は、PANGO系統のB.1.1.529系統とその亜系統にあたるBA系統を含む。
※各都道府県のゲノムサーベイランスの状況については、厚生労働省HPの新型コロナウイルス感染症について/国内の発生状況/変異株に関する参考資料、において公表しています。

※ゲノムサーベイランスについては、以下の感染研HPで引き続き掲載予定

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/10745-cepr-topics.html>

感染症発生動向調査週報 (IDWR) (感染研)

※初回：5/8 - 5/14データを5/26(金)に公表予定 (感染研HP)

表紙、発生動向総覧、グラフ総覧 (イメージ)



マークをクリックするとそのページを見ることができます



<第14週>RSウイルス感染症の定点当たり報告数は過去5年間の同時期の平均より多く、第9週以降増加が続いている/その他最新動向



注目すべき感染症

<今週は該当記事はありません>



病原体情報 / 海外感染症情報 / その他

病原体情報 / 海外感染症情報 / その他



速報

<今週は該当記事はありません>



読者のコーナー
<今週は該当記事はありません>



グラフ総覧 (第14週)
P.9-14

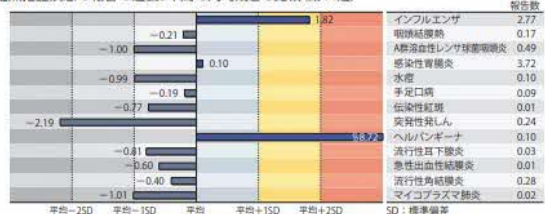


第14週のデータ
P.15-29

◆定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です(増減の目安は小数点第3位以下を含む)。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較 (第14週)



当該週と過去5年間の平均 (過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週間分の平均) との差をグラフ上に表現した。

インフルエンザ

定点当たり報告数は第11週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は新潟県(14.06)、山形県(11.14)、青森県(7.03)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスに掛ける報告数は93例と前週と比較して減少した。都道府県別では33都道府県から報告があり、年齢別では0歳(3例)、1~9歳(34例)、10代(9例)、20代(1例)、30代(4例)、40代(3例)、50代(1例)、60代(5例)、70代(13例)、80歳以上(20例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの)

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は第9週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は鹿児島県(2.40)、福井県(1.74)、佐賀県(1.61)である。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福井県(0.48)、群馬県(0.46)、佐賀県(0.43)、鹿児島県(0.43)である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は鳥取県(2.11)、福岡県(2.03)、沖縄県(1.21)である。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別の上位3位は石川県(10.66)、大分県(9.53)、宮崎県(8.17)である。

手足口病の定点当たり報告数は第10週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(4.03)、福井県(0.43)、長崎県(0.36)である。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は高知県(0.07)、徳島県(0.04)、滋賀県(0.03)である。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第10週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は熊本県(1.46)、長崎県(1.05)、佐賀県(0.78)である。

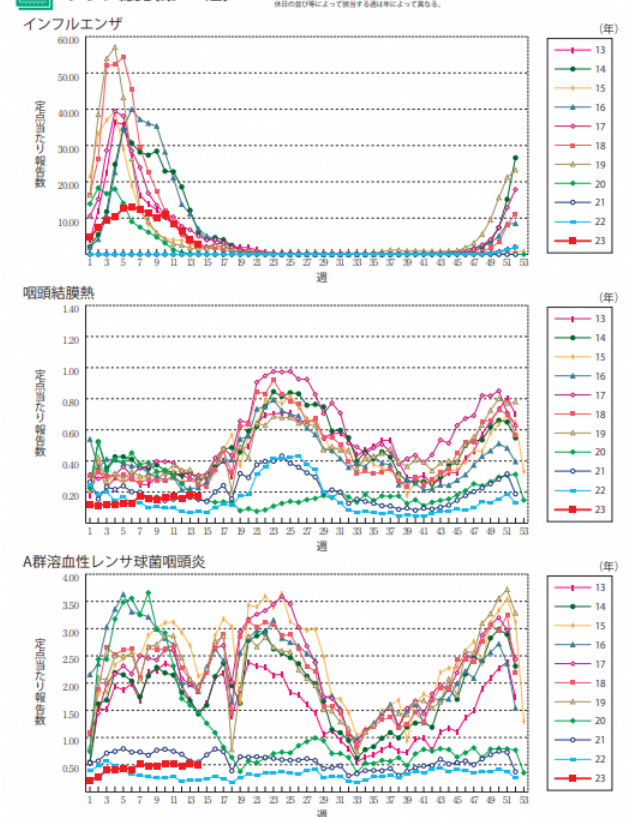
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は熊本県(0.10)、佐賀県(0.09)、大分県(0.08)、宮崎県(0.08)である。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は石川県(0.40)、高知県(0.38)、山形県(0.10)である。

感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。2都道府県から2例報告があり、年齢別では1~4歳(1例)、10代(1例)であった。

グラフ総覧 (第14週)



※新型コロナに限らない感染症全体を扱うものであり、定点当たり新規患者数を評価

※以下の感染研HPで引き続き掲載予定

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2023.html>

新型コロナウイルス感染症サーベイランス週報（感染研）

※初回：5/8-5/14データを5/26(金)に公表予定（感染研HP）

今週の主なコメント（イメージ）

国立感染症研究所 感染症疫学センター

National Institute of Infectious Diseases/Center for Surveillance, Immunization, and Epidemiologic Research

新型コロナウイルス感染症サーベイランス週報： 発生動向の状況把握

2023年第15週(2023年4月10日～4月16日; 4月17日現在)*

COVID-19 weekly surveillance update:
epidemiologic situational awareness
- Week 15, as at April 17, 2023

*一部、第16週の情報を含む

本週報は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況を、時・人・場所の項目を用いて記述し、複数の指標を精査し、全国的な観点からまとめています。「トレンド(傾向)」と「レベル(水準)」を明記し、疫学的な概念を用いて、状況把握の解釈を週ごとに行っています。解釈については、注意事項にも記載していますが、特に直近の情報については、過小評価となりうる場合などがあるので十分にご注意下さい。国や地方自治体のCOVID-19対策に従事する皆様とともに、広く国民の皆様にもCOVID-19に関する情報を提供し、還元することを目的としております。COVID-19対策・対応の参考資料として活用していただければ幸いです。

2022年9月26日より全国で4類型のみ発生届による全数報告と全数把握に切り替わったことに留意する必要があります。

今週の主なコメント	1
1. 全国の状況	4
1.1. 全国の新規症例報告数	4
1.2. 全国の検査数、新規陽性者数、陽性率	5
1.3. 全国の入院者数、重症者数、死亡者数	6
1.4. 全国の年齢群別新規症例報告数	9
2. 地域別の状況	11
2.1. 地域別の新規症例報告数	11
2.2. 地域別別の重症者数	14
HER-SYSに関する注意点	16
解釈に関する考え	16
参考サイト	16

今週の主なコメント

全国の状況:国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数(再陽性例を含む)を積み上げた情報によると、2023年4月17日0時現在、新型コロナウイルス感染症の症例報告数は33,318,606人、死亡者数は74,244人であり、前週と比較して新規症例報告数は1,819人増加、死亡者数は4人減少した。なお、新規陽性者数は第6波のピークより低いレベルで推移している。

第15週は、多くの指標で微増傾向であった。第15週(4月10日～4月16日)は、第14週(4月3日～4月9日)と比べて、検査数(第15週:443,282、第14週:426,805)、新規陽性者数(第15週:56,590、第14週:54,771)、検査陽性率(第15週:12.77%、第14週:12.83%)であり、検査数、新規陽性者数は増加し、検査陽性率は微減(ほぼ横ばい)であった(遅れ報告を考慮した4月10日現在の第14週の値との比較においても検査陽性率は微減(ほぼ横ばい)であった)。検査数と新規陽性者数は増加したが、検査陽性率が微減し、動向としての解釈が困難な傾向である。

より重症な入院例の指標は、少し過去の罹患を反映する傾向があるが、軽症例・無症候例と比較して、受診・検査行動の変化の影響を受けにくい。第15週に新規に届出された診断時中等症以上の症例は117人、重症例は21人であった。前週と比して、中等症以上、重症ともに減少であった。一方、遅れ報告を考慮し、4月10日現在の第14週の値と比較した場合は、第15週の中等症以上及び重症の症例はともに増加であった。なお、年齢群別では、中等症以上の症例においては、0-4歳、10-14歳、15-19歳、80歳以上の年齢群で微増～増加した。重症の症例においては、10-14歳と80歳以上の年齢群で微増～増加した。レベルとしては、中等症以上・重症の症例ともに、全ての年齢群で第7波のピークレベルを大きく下回っている。

新規の入院例においては、2023年第2週以降は減少傾向であったが、第14週、第15週はほぼ横ばい傾向であった。5-9歳、10-19歳、20-29歳、40-49歳の年齢群で微増～増加が見られた。なお、直近の週は過小評価されている場合があり、前週との比較においては、遅れ報告を考慮するのが重要である。レベルとしては、第7波のピークレベルを大きく下回っている。

新規症例の発生から死亡までは、長いタイムラグが想定される。死亡者数においては、第44週以降増加傾向であったが、第2週をピークに減少傾向である。直近5週間では、第11週は312人、第12週は236人、第13週は206人、第14週は143人、第15週は139人であった。

2023年第15週の新規症例報告数のレベルは、人口10万対46人であった。人口当たり年齢群別新規症例報告数は、20代が最多、70代が最少であった。なお、新規症例報告数が最も多い年齢群は50代であった。小児と10代の傾向としては、0-4歳、5-9歳、10代の人口10万対新規症例報告数はそれぞれ50、40、51(それぞれ報告された全症例の3.9%、3.6%、9.9%)であった。

新規報告者数合計の前週比は1.04であった。年齢群ごとの前週比は、中央値:1.01、範囲:0.99～1.27倍であった。新規症例報告数は、5-9歳と10代で増加、その他の年齢群で横ばい～微増した。また、直近の週は過小評価される傾向があり、4月17日現在の第15週の値と4月10日現在の第14週の値と比較すると、中央値:1.02、範囲:0.99～1.27倍であった。直近5週間の前週比は、第11週は0.80、第12週は0.96、第13週は0.99、第14週は1.16、第15週は1.04であった。

人口10万対新規症例報告数の前週差は、第15週は、1.6であった。10代で最も多く、約9人の増加(42から51人)を認め、次に5-9歳の年齢群でも約9人の増加を認めた。他の年齢群では、人口10万対0人から3人の増加を認めた。

地域別:第15週の人口10万対新規症例報告数のレベルとしては、沖縄県で最も高く66人、次に北海道と北陸地域の62人、他の地域は60人未満であった。全症例の54%を関東地方と近畿地方が占めている。関東地方は、第11週は32%、第12週は34%、第13週は36%、第14週は38%、第15週は38%であった。近畿地方は、第11週は14%、第12週は14%、第13週は14%、第14週は15%、第15週は16%であった。

新規症例報告数の前週比は、北海道、東海地方、中国地方と九州地方以外の地域で1を上回った。最も前週比が高かったのは沖縄県で、次いで四国地方であった。人口10万対新規症例報告数の前週差としては、第15週では、人口10万対1.6人の増加であった。最も増加が多かったのは沖縄県で27人の増加、次いで北陸地方で7人の増加であった。最も減少したのは、中国地方で4人の減少であった。

第15週における地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例は、北陸地方で増加、その他の地域で横ばい～減少であった。診断時重症であった症例は東海地方、四国地方、九州地方で微増、その他の地域で横ばい～減少であった。ただし、直近の週は過小評価されている場合があり、前週との比較においては、遅れ報告を考慮するのが重要である。中等症以上、重症の症例はレベルとしては、第7波のピークレベルを大きく下回っている。

まとめ:第15週は、新規症例報告数は増加し、ほぼ全ての年齢群と多くの地域で微増～増加した。新規の入院例においては横ばいであったが、遅れ報告を考慮した新規の中等症以上及び重症の症例は増加した。今後も複数の指標を用いて、状況・疫学の変化を迅速に捉え、リスク評価と適切な対応につなげることが重要である。

※新型コロナの定点当たり新規患者数、新規入院患者数、ゲノムサーベイランス等を評価。

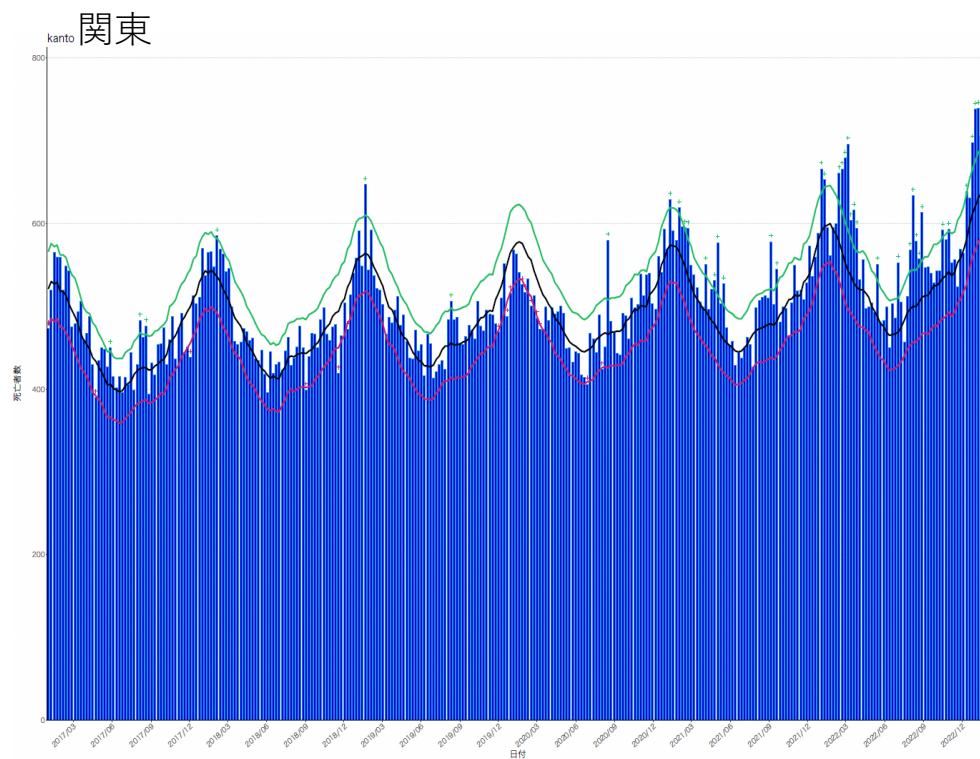
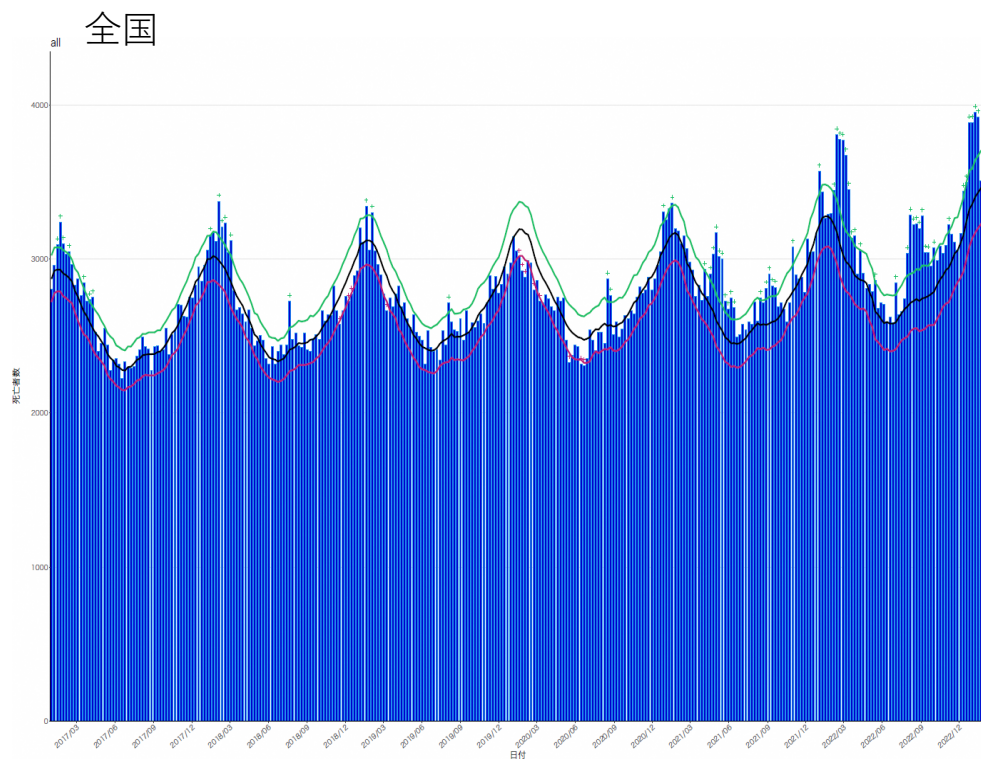
※以下の感染研HPで引き続き掲載予定。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/10754-2021-41-10-11-10-17-10-19.html>

超過死亡の迅速把握

※初回：5/1 - 5/14データを6/9(金)に公表予定（感染研HP）

協力可能な自治体からの実際の死亡数と予測死亡数（イメージ）



※ 全国及び地方別に複数自治体のデータを統合し、週ごとに算出。

○ 超過死亡数：何らかの原因により、総死亡数がどの程度増加したかを示す指標

(算出方法) $\text{超過死亡数} = \text{実際の死亡数} - \text{予測死亡数の点推定値}$ 、もしくは 予測死亡数の予測区間の上限値

○ 過少死亡数：何らかの原因により、総死亡数がどの程度減少したかを示す指標

(算出方法) $\text{過少死亡数} = \text{予測死亡数の点推定値}$ 、もしくは $\text{予測死亡数の予測区間の下限値} - \text{実際の死亡数}$